

InstallShield 12

(SP2 を含む)

2006 年 6 月 6 日

[はじめに](#) | [システム要件](#) | [参考情報](#) | [新機能](#) | [バグ修正](#) | [バグ修正 SP2](#) | [既知の問題](#)

はじめに

InstallShield 12 では、マイクロソフトの新しい Windows Vista オペレーティング システムで提供されている重要なテクノロジーがサポートされています。以下は、今回の主なサポートです。

- Windows Vista システムのターゲット機能
- Windows Vista 品質向上プログラムの検証
- ユーザー アカウント制御のサポート
- デジタル署名の強化
- 再起動マネージャ インフラストラクチャによる再起動回数の最小化
- カスタム アクション動作の文書化のサポート
- セットアップ前提条件の強化

InstallShield 12 は、Microsoft Windows Vista ベータ 2 英語版をサポートするようにデザインされています。InstallShield 12 SP2 には、Microsoft Windows Vista の最終版のサポートを提供する変更が含まれています。SP2 の取得は、ナレッジベースの記事「[Q112919](#)」を参照してください。

今回のリリースでは、InstallShield の品質が大幅に改善されています。140 を超える問題が InstallShield 12 で解決されています。

InstallShield Premier Edition では、Repackager プロジェクト変換ツール、追加の InstallShield Collaboration ライセンス、およびスタンドアロン ビルドといった他のエディションでは提供されていない特別な機能が提供されています。

また、InstallShield 12 では、Internet Explorer 7、Windows Installer 4、Pocket PC Windows Mobile 5.0、Windows CE .NET 5.0、.NET Compact Framework 2.0、DIFx 2.01 などの最新テクノロジーもサポートされています。

リリース ノートのアップデートを含む InstallShield 12 についての最新情報は、ナレッジベース記事「[Q112040](#)」をご覧ください。

[トップに戻る](#)

システム要件

InstallShield を実行するシステムにおける要件

プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

ハードディスク

500 MB 空き領域

ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

オペレーティング システム

Windows 2000 SP3 以降、Windows XP、または Windows Server 2003

ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 5.01 (IE 5.5 以降を推奨)

権限

システムの管理者権限

マウス

Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性のあるポインティング デバイス

ターゲット システム (デスクトップ コンピュータ) における要件

各インストーラ エンジンの最小ターゲット システム要件は、以下のとおりです。

インストーラ エンジン	オペレーティング システムおよび他の要件
-------------	----------------------

Windows Installer 1.1	Windows 95 以降
-----------------------	---------------

Windows Installer 1.2	Windows 95 以降
-----------------------	---------------

Windows Installer 2.0	Windows 95 以降
-----------------------	---------------

Windows Installer 3.0	Windows 2000 SP3 以降、Windows Server 2003
-----------------------	---

Windows Installer 3.1	Windows 2000 SP3 以降、Windows Server 2003
Windows Installer 4.0 (再配布可能ファイルと しては提供されていま せん。)	Windows Vista
InstallScript	Windows 95 以降
Compact	Windows 95 以降
	Internet Explorer 3.02 以降
ClickOnce	Windows 98 以降
	.NET Framework 2.0

ターゲット システム (モバイル デバイス) における要件

InstallShield では、ActiveSync や他のデスクトップ コンポーネントを使用しない、デバイスへ直接行うインストールがサポートされています。

InstallShield では、モバイル デバイス インストールをデスクトップ インストールへ追加することもできます。

Windows Mobile デバイスの要件

InstallShield では、多数の Windows Mobile プラットフォームおよびプロセッサがサポートされています。以下は、Windows Mobile プラットフォームの一覧です：

- Pocket PC Windows Mobile 5.0
- Windows CE .NET 5.0
- Pocket PC 2003
- Windows CE .NET 4.x
- Pocket PC 2002
- Pocket PC
- Palm-size PC 2.11
- Palm-size PC 2.01
- Handheld PC 2000
- Handheld PC Pro
- Handheld PC 2.0
- Smartphone 2003
- Smartphone 2002

この一覧にないプラットフォームも、InstallShield でサポートされていますが、条件設定ができないという点で上記のプラットフォームと異なります。

InstallShield では、次の Windows Mobile プロセッサがサポートされています。

- ARM720
- ARM820
- ARM920
- Common Executable Format (CEF)
- Hitachi SH3
- Hitachi SH3E
- Hitachi SH4
- i486
- i586
- i686
- MIPS R2000
- MIPS R3000
- MIPS R4000
- SHx SH3
- SHx SH4
- StrongARM-XScale

Palm OS デバイスの要件

InstallShield では、Palm OS 3.5 以降がサポートされています。

Windows Mobile デバイス インストールのデスクトップ要件

Windows Mobile デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータの要件は以下のとおりです：

- Microsoft ActiveSync 3.x 以降 (Windows Mobile 5.x デバイスには ActiveSync 4.x が必要)
- 管理者権限

Palm OS デバイス インストールのデスクトップ要件

Palm HotSync は、Palm OS デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータに必要です。

[トップに戻る](#)

参考情報

アップグレードの概要

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 12 に移行する際に発生する可能性がある問題については、ナレッジベース記事「[Q112115](#)」または InstallShield ヘルプ ライブラリの「InstallShield 11.5 以前のプロジェクトをアップグレードする」をご覧ください。以下のセクションは、アップグレードに関する概要です。

基本の MSI プロジェクトと InstallScript カスタム セットアップ

定義済みの InstallScript イベントは今回より、InstallScript カスタム アクションを含む基本の MSI プロジェクトで使用できません。したがって、イベントで InstallScript コードが使用されている InstallShield 11.5 以降の基本 MSI プロジェクトがある場合、そのコードを 1 つ以上の InstallScript カスタム アクションに移動する必要があります。

InstallScript MSI オブジェクト プロジェクトとマージ モジュール プロジェクト

マージ モジュール プロジェクト タイプが強化され、今回より、基本の MSI プロジェクトと同じ InstallScript ビューを使用することができます。この新しく強化されたマージ モジュール プロジェクト タイプが、InstallScript MSI オブジェクト プロジェクト タイプの代わりに使用されます。InstallScript MSI オブジェクト プロジェクト タイプは InstallShield では使用できなくなりました。

InstallShield 12 を使って以前のバージョンで作成された InstallScript MSI オブジェクト プロジェクトを開くと、プロジェクトはマージ モジュール プロジェクトに変換されます。定義済み InstallScript イベントは現在、InstallScript カスタム アクションを含むマージ モジュール プロジェクトで提供されていません。したがって、イベントでスクリプト コードが使用されている InstallShield 11.5 以降の InstallScript MSI オブジェクト プロジェクトがある場合、プロジェクトが InstallShield 12 でマージ モジュールに変換される前または後で、そのコードを 1 つ以上の InstallScript カスタム アクションに移動する必要があります。

ビルド済みの InstallScript MSI オブジェクト (.imm フィル) を含むアップグレード プロジェクトは、ビルドをしても失敗します。これは、これらのオブジェクトが InstallShield 12 では使用できないためです。

InstallScript カスタム アクションがある InstallShield 12 マージ モジュールについては、以前および最新のバージョン同様、InstallShield 12 で使用できます。

InstallScript プロジェクト

InstallShield 12 で作成された InstallScript インストールでは、以前のバージョンの InstallShield で作成されたオブジェクトを使用できません。

InstallScript プロジェクトを InstallShield 12 へアップグレードすると、すべての InstallShield オブジェクトへの参照は、InstallShield 12 バージョンのオブジェクトをポイントするように更新されます。バージョン 12 のオブジェクトがシステムに存在しない場合、「オブジェクトが見つかりませんでした」というエラー メッセージがビルド時に表示されず。

Setup.exe の /deleter と /clone_nowait コマンドライン パラメータは現在サポートされていないので、使用しないようにしてください。

オートメーション インターフェイス

InstallShield のオートメーション インターフェイスまたはスタンドアロン ビルドを使用する場合、既存のコードを更新して、新しい ProgID (ISWiAuto12.ISWiProject または SAAuto12.ISWiProject) を反映させてください。

Visual Studio の統合

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき、InstallShield Premier Edition または InstallShield Professional Edition のいずれかの 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

Premier Edition で提供されているスタンドアロン ビルド

スタンドアロン ビルドは InstallShield Premier Edition でのみ提供されています。このモジュールを使い、InstallShield の一部分のみを使用することで、インストールのコンパイルを行うビルド システムをクリーンな環境に保つことができます。

Update Service の変更点

本リリースより、Update Service Starter Edition は InstallShield に含まれていません。また InstallShield で作成する新しいプロジェクトの Update Service はデフォルトで [無効] となっています。

Update Service には様々なオプションがあり、完全ソリューションとして本製品と共に購入することもできますし、またはカスタマイズ ソリューションとして個別に購入することもできます。詳しい情報は、[マクロビジョン Web サイト](#)を参照してください。

[トップに戻る](#)

新しい機能

Windows Vista システムをターゲットする機能

InstallShield では、Windows Vista がインストールに必須であると指定することができます。また、機能およびコンポーネントに Windows Vista に関連する条件をビルドすることもできます。

Windows Vista 品質向上プログラムの検証

エンドユーザーに最高のインストール エクスペリエンスを提供するため、作成したインストールが Windows Vista 品質向上プログラムで定義されているベスト プラクティスに準拠していることが大切です。InstallShield には今回より、基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトで作成したインストールが Windows Vista 品質向上プログラムのインストール要件を満たしているかどうかを検証する検証スイートが搭載されています。Windows Vista ロゴ を使用する場合、アプリケーションのインストールがプログラムの要件を満たしている必要があります。

また、インストール パッケージの検証およびマージ モジュールの検証に使用する内部整合性評価プログラム (ICE) の評価項目をカスタマイズすることも可能になりました。このため、ロゴ資格認定を取得する必要はないけれども、検証で作成中のインストールまたはマージ モジュールが特定のベスト プラクティスに適合していることを確認したいときに便利です。検証の設定を構成するには、[ツール] メニューで、[オプション] をクリックし、[検証] タブを選択します。

ユーザー アカウント制御のサポート

InstallShield では、Microsoft が Windows Vista に追加したユーザー アカウント制御機能がサポートされています。[一般情報] ビューに新しく追加された“管理者権限”設定を使って、インストールが管理者権限を必要とするかどうかをプロジェクト全体に対して指定することができます。また、[リリース] ビューの [必要実行レベル] 設定では、Setup.exe ファイルが Windows Vista プラットフォーム上でインストール (セットアップ ランチャ、すべてのセットアップ前提条件、および .msi ファイル) を実行するときに必要な最小特権レベルを指定できます。

デジタル署名の強化

インストールにデジタル署名情報を指定するユーザーのために、InstallShield では今回より、MsiDigitalCertificate テーブルと MsiPatchCertificate テーブルにエントリが追加され、ユーザー アカウント制御のパッチがサポートされています。これにより、管理者以外のユーザーがインストールすることができるパッチを作成できます。また、プロジェクト アシスタントの [インストールのビルド] ページで、インストールにデジタル署名情報を指定できるようになりました。

再起動マネージャ インフラストラクチャによる再起動回数の最小化をサポート

インストール終了後のシステム再起動は、エンドユーザーにとって不都合なものです。Windows Vista 品質向上プログラムの要件の 1 つに、エンドユーザーがインストール完了後自動的にアプリケーションを閉じて再起動を行うことができるオプションを含まなくてはならないという項目があります。

この品質ガイドラインをサポートするため、すべての基本の MSI プロジェクトで MsiRMFilesInUse ダイアログが提供されています。インストール中に更新が必要なファイルが他のアプリケーションによって使用中の場合、インストールでこのダイアログが表示されます。ダイアログには、エンドユーザーが選択できる次の 2 つのオプションが含まれます。

- エンドユーザーは選択で、インストールの完了後、自動的にファイルを使用中のアプリケーションを閉じて、再起動することができる。
- エンドユーザーは、アプリケーションを閉じない選択ができる。インストールの終わりで再起動が必要。

カスタム アクション動作の文書化をサポート

各カスタム アクションの意図された動作は、Windows Vista 品質向上プログラムに基づいて文書化する必要があります。これは、システム管理者が製品をエンタープライズ環境に配布する場合など、カスタム アクションの動作を把握する必要がある場面において特に有益です。この要件を満たすための支援として、InstallShield の [カスタム アクション] ビューに新しい “ヘルプ ファイル パス” 設定が追加されました。この設定を使って、プロジェクトに作成したカスタム アクションの動作について説明するファイルへのパスを指定します。InstallShield ヘルプ ライブラリでは今回、異なる機能をサポートするために InstallShield プロジェクトに自動的に追加されるビルトイン InstallShield カスタム アクションの説明が追加されました。

セットアップ前提条件の強化

セットアップ前提条件エディタが大幅に強化されました。

- ユーザー インターフェイスが改善され、簡単にアクセスできるコマンドを一覧表示するメニューが追加されました。
- 新しい [動作] タブでは、エンドユーザーが前提条件のインストールをスキップできるかどうかを指定することができます。また、ターゲット マシンの再起動の要否に応じて、前提条件のインストールをどのように進めるかを指定することもできます。
- DWORD レジストリを比較するときの前提インストール条件を作成できるようになりました。64 ビット マシン用の条件の作成も可能になりました。

セットアップ前提条件の再配布は、これまで以上に柔軟になりました。インストールに含まれる個々のセットアップ前提条件について異なる提供方法を指定できるようになりました。これによって、セットアップ前提条件ファイルを部分的に、ソース メディアに格納したり、Setup.exe に圧縮して実行時に抽出したり、ダウンロードしたりすることが可能になりました。さらに、セットアップ前提条件にリリース フラグを割り当てることができるようになりました。このため、異なるリリースのビルド時にセットアップ前提条件を含めたり除外するなど自由に組み合わせることが可能です。

この機能により、次の問題が解決されました: 1-11PCLN、1-19T8GD、1-1AYMNL、1-Z1WPD、IOC-000046834、IOC-000043038、IOC-000043247、IOC-000043656、IOC-000043996。

プロジェクト全体における Windows Installer 4.0 ログ ファイルのサポート

InstallShield では Windows Installer 4.0 を使って実行されるインストールについて、コマンドラインの使用やレジストリを使ったログ パラメータの設定などの必要なしに、プロジェクト全体で簡単にログ記録を行うオプションが提供されています。ログ記録を有効にするには、[一般情報] ビューの新しい “MSI ログの作成” 設定で [はい] を選択します。デフォルトのログ記録パラメータをオーバーライドするには、[プロパティ マネージャ] ビューの MsiLogging プロパティを編集します。インストールが Windows Installer 4.0 があるターゲット システム上で実行される場合、インストーラはログ ファイルを作成して MsiLogFileLocation プロパティにそのパスを挿入します。また、SetupCompleteSuccess ダイアログ、SetupCompleteError ダイアログおよび SetupInterrupted ダイアログに [Windows Installer ログの表示] チェック ボックスが追加されました。

64 ビット システムにおけるレジストリ リフレクションのサポート

InstallShield では、Component テーブルにある msidbComponentAttributesDisableRegistryReflection という名前の新しい Windows Installer 4.0 属性がサポートされています。この属性を素早く構成するには、[コンポーネント] ビューで選択したコンポーネントについて “レジストリ リフレクションを無効にする” 設定を使用します。レジストリ リフレクションによって、ターゲット マシン上で 32 ビットの [レジストリ] ビューと 64 ビットの [レジストリ] ビューの同期が保たれます。この設定は、Windows Installer 4.0 がある 64 ビット システムでのみサポートされています。他のシステムでは、この設定は無視されます。

複数言語ユーザー インターフェイス (MUI) のサポート

Windows Installer 4.0 によって実行される複数言語アプリケーション用のインストールを作成するとき、InstallShield を使って Windows 複数言語ユーザー インターフェイス (MUI) のサポートを含むショートカットを作成することができます。[ショートカット] ビューでは、選択されたショートカットに対して、次の 4 つの新しい設定が使用できるようになりました。

- 表示リソース DLL
- 表示リソース ID
- 説明リソース DLL
- 説明リソース ID

これらの新しい設定は、Windows Installer 4.0 の Shortcut テーブルにある新しい 4 つの列に対応しています。

Pocket PC Windows Mobile 5.0 および Windows CE .NET 5.0 のサポート

InstallShield で、Pocket PC Windows Mobile 5.0 および Windows CE .NET 5.0 モバイル デバイス用のターゲット インストールを指定できるようになりました。このサポートは、基本の MSI、InstallScript MSI、およびスマート デバイス プロジェクトに適用します。

新しい .NET Compact Framework 2.0 とその他のモバイル デバイス再配布可能ファイル

モバイル デバイス インストール用に、次のような新しい再配布可能ファイルが提供されました: .NET Compact Framework 2.0、SQL Mobile 2005、SQL Client 2.0、SQL Mobile 2005 Replication。また、Smartphone 2002 および Smartphone 2003 用のインストールでも、再配布可能ファイルがサポートされています。

モバイル デバイス用デジタル署名の拡張

すべてのモバイル デバイス プラットフォームで、デジタル署名がサポートされています。以前、Smartphone 2002 および Smartphone 2003 以外では、デジタル署名がサポートされていませんでした。

新しい Repackager プロジェクト変換ツール (Premier Edition)

Windows Installer サービス用に作成されたインストールは従来のインストールとはまったく異なるため、レガシー インストールをリパッケージ ツール無しで再利用することは不可能です。Repackager はインストール中にシステムに配置されるデータをキャプチャして、Windows Installer パッケージへ変換する作業を支援します。その後、企業のニーズに応じてパッケージをカスタマイズおよび配布することができます。さらに詳しい情報は、このツールに含まれるヘルプ ライブラリを参照してください。

Premier Edition 用の追加 InstallShield Collaboration ライセンス

InstallShield Premier Edition には、InstallShield Collaboration for Visual Studio のライセンスが 5 本含まれています。これらのライセンスを使って Visual Studio .NET 2002、Visual Studio .NET 2003 または Visual Studio 2005 がインストールされている開発システムに InstallShield Collaboration をインストールすることができます。

InstallScript アーキテクチャ再構築による InstallScript MSI プロジェクトおよび InstallScript カスタム アクションがある基本の MSI プロジェクトの機能強化

InstallScript MSI アーキテクチャには、いくつかのセキュリティ (COM/DCOM) とその他の箇所に関する問題があったため、様々な原因でインストールが失敗することがありました。これらの問題を解決して InstallScript MSI プロジェクトの安定性を高めるため、InstallShield 12 ではアーキテクチャが大幅に改良されました。この改良によって、InstallScript カスタム アクションを含む基本の MSI プロジェクトの安定性も高まりました。

SQL Server 2005 Express Edition のサポート

InstallShield には今回より、SQL Server 2005 Express Edition のセットアップ前提条件が含まれています。SQL Server 2005 Express Edition は、Microsoft Data Engine (MSDE) を引き継ぐために設計された SQL Server 2005 のライト バージョンです。この前提条件を基本の MSI プロジェクトまたは InstallScript MSI プロジェクトに追加すると、SQL Server 2005 Express がターゲット マシンにインストールされます。

この機能により、次の問題が解決されました: IOC-000043863、IOA-000013040。

Visual C++ 8.0 マージ モジュールの追加

InstallShield に、Visual C++ 8.0 のマージ モジュールが追加されました。

この機能により、次の問題が解決されました: IOA-000013039。

更新された DirectX 9.0c 再配布可能ファイル

InstallShield に、DirectX 9.0c October 2005 のサポートが追加されました。

DIFx 2.01 のサポート

InstallShield では、最新版の Driver Install Frameworks for Applications (DIFx) がサポートされています。この新しいバージョンには、マイクロソフトからの最新バイナリファイルが含まれているため、InstallShield で作成する基本の MSI プロジェクト、InstallScript プロジェクトまたは InstallScript MSI プロジェクトで使用することができます。

Setup.exe コマンドライン パラメータと Update.exe コマンドライン パラメータの強化

以下は、追加または修正された Setup.exe コマンドライン パラメータです。

- /clone_wait (InstallScript のみ)
- /runfromtemp (基本の MSI プロジェクト、InstallScript プロジェクト、および InstallScript MSI プロジェクト)
- /v"ISSCRIPTCMDLINE=¥"<Option1> <Option2>¥"" (基本の MSI のみ)
- /hide_progress (基本の MSI プロジェクト、InstallScript プロジェクト、および InstallScript MSI プロジェクト)
- /hide_splash (InstallScript および InstallScript MSI プロジェクト)

COM 抽出と依存関係スキャナにおけるレジストリおよびファイルのフィルタ機能の強化

InstallShield と共にインストールされる新しい Filters.xml を編集して、COM サーバーから必要のない COM データが抽出されるのを防ぐことができます。この Filters.xml ファイルを編集することにより、COM 抽出から除外されるレジストリ キーの一覧をカスタマイズすることができます。

Filters.xml ファイルは今回より、スタティック依存関係スキャナ、ダイナミック依存関係スキャナ、Visual Basic 依存関係スキャナによって除外または選択されるファイルをリストすることもできます。以前は、2 つの異なるファイル (Userscan.ini と Iswiscan.ini) が除外および選択の対象になるファイルをリストするために使用されていました。

この機能により、次の問題が解決されました: IOC-000040829。

オートメーション インターフェイスの強化

InstallShield オートメーション インターフェイスが、一部強化されました。オートメーション インターフェイスでは今回より、OverrideSystemAttributes プロパティ、OverrideSystemSize プロパティ、OverrideSystemVersion プロパティ、および OverrideSystemLanguage プロパティが、ISWiFile オブジェクトに提供されています。これらのプロパティは、使用不可となった UseSystemSettings プロパティに取って代わります。また、今回より、DeleteSubFolder メソッドと DeleteShortcut メソッドが ISWiFolder オブジェクトに提供されています。

- OverrideSystemAttributes — Hidden、ReadOnly、Vital、System など、すべてのファイル属性で開発システムの設定をオーバーライドするには、このプロパティを True に設定します。このプロパティを False に設定すると、Hidden プロパティ、ReadOnly プロパティ、System プロパティ、および Vital プロパティは無視されます。
- OverrideSystemSize — 開発システムのファイル サイズをオーバーライドするに

は、このプロパティを True に設定します。このプロパティを False に設定すると、Size プロパティは無視されます。

- OverrideSystemVersion — 開発システムのファイル バージョンをオーバーライドするには、このプロパティを True に設定します。このプロパティを False に設定すると、Version プロパティは無視されます。
- OverrideSystemLanguage — 開発システムのファイル言語をオーバーライドするには、このプロパティを True に設定します。このプロパティを False に設定すると、Languages プロパティは無視されます。
- DeleteSubFolder — 現在のフォルダから指定されたサブフォルダを削除します。
- DeleteShortcut — 現在のフォルダから指定されたショートカットを削除します。

この機能は、次の問題を解決します: 1-E0E06、1-EETYC。

IIS の強化

[インターネット インフォメーション サービス] ビューの Web サイトの [詳細] タブに、Enable32BitAppOnWin64 プロパティが追加されました。32 ビット バージョンの ASP.NET を使用する必要がある場合、このプロパティを True に設定します。64 ビット バージョンの ASP.NET を使用する必要がある場合、このプロパティを False に設定します。

この機能により、次の問題が解決されました: IOC-000046612。

Internet Explorer 7.0 との互換性

Internet Explorer 7.0 と互換性を持たせるために、InstallShield の一部が今回改訂されました。代表的な例として、トランスフォーム ウィザード、カスタム アクション ウィザード、文字列テーブル エディタ、[配布] ビュー、および [一般情報] ビューが更新されました。

Trialware のオンライン アクティベーションの認証プロキシのサポート

InstallShield を使って作成される “Try and Buy/プロダクト アクティベーション” タイプの Trialware について、オンライン アクティベーションが強化され、インターネットのアクセス中にプロキシ サーバーを通してオンライン アクティベーションができる機能をエンドユーザーに提供できるようになりました。これにより、認証プロキシ サーバーを通した InstallShield のオンライン アクティベーションも今回より可能になりました。また、InstallShield アクティベーション サービスのアカウントがあると、InstallShield 12 を使用して “Try and Buy/プロダクト アクティベーション” タイプの Trialware を作成したとき、エンドユーザーは認証プロキシ サーバーを通して Trialware をアクティベートすることもできます。

強化されたスタート ページ

スタート ページで表示される最近開いたプロジェクトの一覧に、プロジェクトの種類を表示する列が挿入されました。また、一覧に表示されるプロジェクトの最大数が、4 つから 8 つに増えました。

この機能により、次の問題が解決されました: IOA-000008157。

InstallScript の強化機能および新機能

InstallScript 言語が一部強化されました。新規および改訂された変数、関数および定数が今回のリリースで提供されています。以下に一覧表示されている強化点の詳細情報については、InstallShield ヘルプ ライブラリをご覧ください。

システム変数の変更およびテキスト置換の追加

DISK1SETUPEXENAME という名前のシステム変数が追加されました。また、次の 2 つのシステム変数で、新しいデフォルト値が導入されました。

- UNINST
- UNINSTALL_STRING

次の 2 つの InstallScript テキスト置換が新しく提供されました。

- DISK1SETUPEXENAME
- SELECTED_LANGUAGE

スクリプト変数の追加

2 つのスクリプト変数が新しく提供されました。

- INSTALLSCRIPTMSI
- BASICMSI

この機能により、次の問題が解決されました: IOC-000044583。

関数および定義済み定数の変更

新しい LANG_SUPPORTED 定義済み定数が Is 関数との使用のために提供されました。

また、DoInstall 関数が今回より、LaunchAppAndWait 関数に似ています。

[トップに戻る](#)

バグ修正 (2006 年 6 月 6 日)

1-1043L6

スタート ページで最近開いたプロジェクトの一覧は今回より、プロジェクトを開いた時点、または作成した時点で更新されます。以前は、更新された最近開いたプロジェクトの一覧を見ると、InstallShield を一度閉じてから再度開く必要がありました。

1-14NI90 (基本の MSI)

ダイレクト エディタを使用して、Control テーブルの Text 列、または RadioButton テーブル、CheckBox テーブル、ComboBox テーブル、ListBox テーブルのいずれかの列を変更したとき、[ダイアログ] ビューも今回より、それに従って更新されます。以前、このタイプの変更を [ダイアログ] ビューで確認するには、プロジェクトを保存してから一度閉じて、再度開く必要がありました。

1-16TY1H

プロジェクト アシスタントの [アプリケーション ファイル] ページで INSTALLDIR サブフォルダの [ファイル一覧の更新] コンテキスト コマンドを選択すると、INSTALLDIR サブフォルダが削除されていた問題は修正されました。

1-18K6P7

InstallShield ヘルプ ライブラリで、InstallScript SYSINFO 構造体変数の nServicePack メンバの説明が拡張されました。

1-190X8P

InstallShield が Visual Studio 内から実行されているときに、[ファイルとフォルダ] ビュー内にあるファイルに対して [ビルド時に依存関係をスキャン] コマンドが選択されたとき、Visual Studio がクラッシュしていた問題は修正されました。以前のバージョンでは、Visual Studio がある状況下でクラッシュすることがありました。

1-19JANT (基本の MSI)

今回より、ダイアログ コントロールの名前を変更して、同ダイアログ上にある別のコントロールの名前に一致させることができなくなりました。名前に重複があると Control テーブルで循環参照が発生するため、これを無理に行おうとすると、警告メッセージが表示されます。以前のバージョンでは、ダイアログ コントロールの名前を、同ダイアログに既に存在するダイアログ コントロールの名前で置き換えることは許可されていましたが、これが原因で InstallShield がロックされたり、コントロールがダイアログから消えてしまうなどの予期しない結果が起きていました。

1-19KNN7

[リリース] ビューの “デモ ファイル名” 設定で省略記号ボタン (...) をクリックしたときに表示される [ファイルの参照] ダイアログ ボックスで、.xpo ファイルを選択できるようになりました。以前、.xpo ファイルは選択できませんでした。

1-19QYU8

再配布可能ファイル ダウンローダ ウィザードの推測残り時間が今回より中断なく表示され、残り時間がちらつく問題はなくなりました。

1-19QYUJ (InstallScript)

InstallScript で、After Move Data イベント カテゴリが、今回よりイベントの時系列順を反映して Move Data イベント カテゴリの下に表示されます。以前、After Move Data イベント カテゴリは Move Data イベント カテゴリの上に表示されていました。

1-1AEAK3 (InstallScript、InstallScript MSI)

SdLicense2RTF ダイアログで ScrollableText コントロールを変更したとき、今回より RTF ファイルが実行時に表示されます。以前、このコントロールが変更されると、RTF ファイルは実行時に表示されませんでした。

1-1AS2UQ (基本の MSI と InstallScript MSI)

インストールに Trialware を構成してから、リリース フラグを使って Trialware を除外したときに、検証エラー ICE03 が発生していた問題は今回修正されました。

1-1B3BSJ (InstallScript、InstallScript MSI)

InstallScript プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトにあるダイアログのクローンを作成したとき、新しくクローンされたダイアログに [動作] サブノードが作成されていた問題は今回修正されました。以前、クローンの作成中に [動作] サブノードがダイアログに作成され、[動作] サブノードをクリックすると InstallShield がクラッシュしていました。基本の MSI プロジェクトでは [動作] サブノードがサポートされていますが、InstallScript プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトではサポートされていません。

1-1CI4Z8

プロジェクトが開いていないときも、InstallShield Premier Edition 内から新しい言語ウィザードを起動することができるようになりました。

1-1CU0K7

InstallShield ヘルプ ライブラリで、SYSINFO.bIsWow64 ("Wow64" の前が大文字の "i") が間違って SYSINFO.blIsWow64 ("Wow64" の前が小文字の "l") として表示されていた問題は修正されました。

1-1CV7Y1

ビルド エンジンでは今回より、セミコロンを含むディレクトリ パスを処理できるようになりました。以前、InstallScript プロジェクトでダイナミックまたはスタティック リンクが名前にセミコロンが使われているフォルダ内にあるファイルに含められたとき、ビルド警告 -5000 が発生し、同フォルダからのファイルはビルドされたリリースに含められませんでした。

1-8A7F9

InstallShield ヘルプ ライブラリでは今回より、標準 DLL で関数を呼び出すカスタム アク

ションを作成するとき、関数で `_stdcall` 呼び出し規約を使用する必要があることが述べられています。この規則が使用されていない場合、複数のパラメータを持つ関数は適切に動作しません。

1-AN16J (InstallScript、InstallScript MSI)

定義済みの InstallScript ダイアログが編集された際、アイコンが既に存在するときも新規作成されていた問題は今回修正されました。

1-CS5FN

InstallShield ヘルプ ライブラリに、スクリプトによって読み込まれた COM オブジェクトのアップロードおよびリリースの方法についての詳しい情報が追加されました。より詳しく学ぶには、次のヘルプトピックを参照してください: "COM オブジェクトを使用してインストールを拡張する"、"CoCreateObject"、"CoCreateObjectDotNet"、"CoGetObject"。

1-DK3LA

ビルド コード -7016 は今回より、ビルド警告になりました。以前、このコードはビルド エラーでした。このビルド警告は、Windows Mobile デバイスのサポートを含むリリースをビルドしたとき、.ini ファイルの CabFiles キーが長すぎるときに発生します。Microsoft ActiveSync の一部のバージョンでは、長い CabFiles キーはサポートされていません。

1-E0UDT

オートメーション インターフェイスで Comments プロパティが ISWiShortcut オブジェクトに追加されました。

1-EJLM5 (InstallScript)

[ショートカット] ビューにある "VS .NET プロジェクト出力" 設定が、インターネット ショートカットに対して無効にされました。この設定は、この種類のショートカットに適用しません。

1-G967G (スタンドアロン ビルド)

今回より、スタンドアロン ビルドが InstallShield MSDE 2000 Object for NT Platforms があるインストールで使用されるとき、.cab ファイルが .msi ファイルにストリームされます。

1-HNYRC (InstallScript、InstallScript MSI)

再起動中に (OnRebooted イベントの実行中)、スキン ダイアログが正しく表示されなかった問題は今回修正されました。以前のバージョン (DevStudio 9 以降) では、これらのダイアログは、再起動中、スキンが適用されない状態で表示されていました。

1-ID3OX (InstallScript、InstallScript MSI)

ダイアログ エディタで、ダイアログのための "リソース識別子" 設定が追加されました。

1-IU3I5

今回より、新しいプロジェクトを、既存のプロジェクトを開いてから別のファイル名で保存して作成した場合、InstallShield プロジェクト ファイル (.ism) およびすべての関連付けられたプロジェクト ファイル (Setup.rul スクリプト ファイルを含む) は書き込み可能ファイルになります。以前のバージョンでは、一部のファイルは書き込み可能でしたが、他のファイルは読み取り専用になっていました。

1-RSX09

InstallShield ヘルプ ライブラリの「再起動オブジェクト」ヘルプトピックは今回より、追加のコマンドライン引数の指定方法を正しく説明しています。以前、このヘルプトピックには正しくない例が使用されていました。

1-UZ3ZD

Update Service ビューにある“会社ロゴ”設定のヘルプ ウィンドウでは今回より、Update Service ウィザードのカスタム グラフィックの寸法が正しく表示されます。以前、高さと幅の寸法が逆になっていました。

1-XGEFH (InstallScript)

省略記号 (...) が InstallScript プロジェクトの [一般情報] ビューにある [プログラムの追加と削除] の“アイコンの表示”設定から取り除かれました。省略記号 (...) は基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトでビルド マシンにあるアイコン ファイルを参照するためにデザインされているため、今回この修正が行われました。InstallScript プロジェクトの場合、この設定は、インストールが InstallScript 変数 (foo.ico など) を使用して実行されるターゲット マシン上にあるアイコンを指定するときに使用します。また、1 つ以上のアイコン リソースがファイルに含められたときアイコンの指定ができるように、“アイコン インデックスの表示”設定が追加されました。

IOA-000008306 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[リリース] ビューの“MSI 3.1 エンジン URL”設定は今回より、DevStudio 9 からアップグレードされたプロジェクトのデフォルト値を含みます。以前、アップグレードされたプロジェクトでは、この設定は空白になっていました。

IOA-000008717

InstallShield ヘルプ ライブラリの REGDB_OPTIONS ヘルプ ページで提供されているサンプル コードで誤植がありましたが、修正されました。正しい綴りは、REGDB_OPTIONS です。以前のサンプルでは、アンダースコアがありませんでした。

IOA-000023402

ある条件で InstallShield Professional 5.5 プロジェクトを InstallShield 12 に移行したとき、エラー 424 “次のオブジェクトが必要です” :

IsIsmMigrate.CIsProMigrate.MigrateComponents。”が発生していた問題は修正されました。

IOB-000003487 (基本の MSI、InstallScript MSI)

今回より、ログ ファイルとレポートは、“シャロー フォルダ構造” 設定で構成された値に関係なく、[リリース] ビューで表示されます。以前、シャローフォルダ構造設定で [はい] が選択されると、ログ ファイルとレポートは [リリース] ビューで表示されませんでした。

IOB-000003504 (基本 MSI、InstallScript MSI)

COM+ パスワードは今回より、詳細 Windows Installer ログ ファイルで表示されません。アスタリスクがパスワードを隠すために使用されます。

IOB-000004302

Try and Die タイプの Trialware を作成するためにセットアップされた InstallShield Activation Service アカウントの有効期間は 30 日間から 2 年間になりました。

IOB-000005136

eptProObj をオートメーション インターフェイスの ISWiProject.CreateProject メソッドに渡したとき例外エラーが発生していた問題は修正されました。

IOC-000005742、IOC-000045070

インストールが MSXML 3.0 SP7 を含むように更新されました。以前、古いバージョンの MSXML 3.0 が配布されていました。

IOC-000005960

SYSINFO.nSuites は今回より、Windows XP Home システムの正しいビット値を報告しません。以前、Windows XP Home は報告されていませんでした。ただし、XP Pro ビットがない Windows XP オペレーティング システムから推測することは可能でした。

IOC-000005986 (InstallScript)

SQL データベース接続のログイン ID がプロジェクトに保存されるようになりました。以前、ログイン ID を変更しても、新しい値が保存されなかったため、各ビルドで再設定する必要がありました。

IOC-000034768 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[コンポーネント サービス] ビューの性能が一部大幅に向上しました。今回のリリースでは、大きいサイズの COM+ アプリケーションをほぼ 15 分でプロジェクトにインポートすることができます。以前は、この同じ COM+ アプリケーションをインポートするのに 18 時間以上かかっていました。

IOC-000036296

今回から、ラジオ ボタン コントロールを持つダイアログがリソース DLL から正しくインポートされるようになりました。以前、ラジオ ボタンの文字列が 64 文字を超えたとき、インポートされた後ダイアログ コントロールの一部が消えてしまうという問題が起きていました。

IOC-000037615 (基本の MSI、InstallScript MSI)

SQL スクリプトと SQL クエリの行番号が今回より、Windows Installer の詳細ログ ファイルに書き込まれます。

IOC-000038028

MDAC 2.6、2.7 および 2.8 マージ モジュールが Windows Vista と動作するように更新されました。

IOC-000038094

重複文字列 ID がある文字列テーブル ファイルをインポートしようとしたときに、関連付けられた文字列値が異なると、InstallShield は相違の問題をどのように解決するか指定するようにプロンプトします。文字列値が同じであるとき、InstallShield は文字列テーブルのエントリを適切にインポートします。以前、重複文字列 ID がある文字列テーブル ファイルをインポートすると、“コード ページがシステムにインストールされている必要があります”という正しくないメッセージが表示されていました。また、文字列テーブルのエントリも正しくインポートされませんでした。

IOC-000040311 (基本の MSI)

今回より、コントロールのタブ オーダーが未完了であるとき、ダイアログ コントロールを削除することができます。

IOC-000040570 (基本の MSI)

ダイアログ エディタの [リスト ビュー] コントロールに次の 2 つの設定が追加されました: “アイコン サイズ (Icon Size)”、“適切なサイズに調整 (Stretch to Fit)”。また、アイコン イメージをもつ [リスト ビュー] コントロールを編集しても、Binary テーブルで未使用のエントリが作成されなくなりました。

IOC-000040594 (InstallScript、InstallScript MSI)

[リリース] ビューの “スキンの指定” 設定で Blue 指定して、同じ設定を再度クリックしたとき、値が BlueTC に変わってしまっていた問題は修正されました。

IOC-000040915 (基本の MSI、InstallScript MSI、InstallScript MSI)

[インターネット インフォメーション サービス] ビューで、“親” 仮想ディレクトリ内から “子”

仮想ディレクトリを作成できるようになりました。以前、これは、ディレクトリの表示名に円記号を追加したときのみ可能でした。

IOC-000040940、IOC-000047820 (基本 MSI、InstallScript MSI)

[カスタム アクション] ビューとカスタム アクション ウィザードの [応答オプション] パネルにある “インスクリプト実行” 設定に、次のオプションが追加されました: システム コンテキストのロールバック実行、システム コンテキストのコミット実行、および遅延実行 (ターミナル サービスで使用可能)。

IOC-000042302 (基本の MSI、InstallScript MSI)

今回より、[コンポーネント サービス] ビューで COM+ アプリケーションのチェック ボックスをクリアすると、COM+ アプリケーション (そのコンポーネントおよび ISCom* テーブルの中の対応するすべての情報を含む) は、プロジェクトから完全に削除されます。

IOC-000042351 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[パッチのデザイン] ビューで、以前のセットアップの 1 つに対しその設定を変更したとき、同じパッチ構成の要素である他の以前のセットアップの設定も同時に変更されていた問題は今回解決されました。

IOC-000042573

オートメーション インターフェイスで ISWiSetupFile オブジェクトの Path メンバがパス変数を含むとき、今回よりパス変数は実際のパスに解決されます。以前、パス変数は解決されませんでした。

IOC-000042576

GetDiskInfo は、DISK_INFO_QUERY_DRIVE_TYPE のみが nInfoToQuery に指定されたとき、>= ISERR_SUCCESS を返します。以前は、ISERR_GEN_FAILURE (-1) が返されていました。また今回より、この関数は、Null ポインタが pdi に指定されたとき、< ISERR_SUCCESS を返すようにもなりました。以前、この関数が Null ポインタで呼び出されると、インストールがクラッシュする原因になっていました。また、nResultDiskSpace という名前の新しい構造化メンバを、他の情報をクエリした結果を取得する目的に使用することができます。詳細については、InstallScript ヘルプ ライブラリを参照してください。

IOC-000042627 (基本の MSI、InstallScript MSI)

エンドユーザーがセットアップ前提条件のインストール中に [キャンセル] をクリックすると、前提条件のインストールが完了した後にインストールをキャンセルするかどうかをたずねるメッセージ ボックスが表示されます。エンド ユーザーが [はい] をクリックすると、メッセージ ボックスが閉じ、[セットアップ前提条件] ダイアログの [キャンセル] ボタンが無効になります。以前、このシナリオで、この [キャンセル] ボタンは無効にならず、エンドユーザーが [キャンセル] をクリックし続けると、同じキャンセルの確認メッセージが再度

表示されていました。

IOC-000042634 (基本の MSI、InstallScript MSI)

今回より、ダイレクト エディタで Summary Information テーブルの Security フィールドを編集すると、変更された値がビルドされた .msi ファイルにコピーされます。以前、変更された値は .msi ファイルにコピーされませんでした。

IOC-000042685 (基本の MSI)

ログイン ユーザー情報の参照ダイアログは今回より、選択されたマシンで選択可能なユーザーのみ一覧表示します。前回までのリリースでは、以前に参照されたすべてのマシン上で選択可能なすべてのユーザーが表示されていました。

IOC-000042761 (InstallScript MSI と InstallScript カスタム アクションがある基本の MSI)

インストールで [パッチのデザイン] ビューで作成されたパッチ用に InstallScript エンジンのダウンロードが実行されたとき、実行時エラー発生していましたが、この問題は解決されました。

IOC-000043066 (InstallScript、InstallScript MSI)

InstallScript MSI プロジェクトが InstallScript プロジェクト タイプに変換されたとき SQL 接続のプロパティが今回からエクスポートされます。

IOC-000043151 (InstallScript)

リリース ウィザードを起動したとき、選択されたダイアログ スキンは毎回適切に記憶されます。ビルド エラー -136 は発生しなくなりました。

IOC-000043278 (基本の MSI、InstallScript MSI、InstallScript MSI)

Oracle のサポートを含むインストールが Oracle クライアント ソフトウェアを持たないマシンで実行されたとき、SQLBrowse ダイアログでクラッシュ、またはエラー メッセージが発生していた問題は今回解決されました。

IOC-000043406

セットアップ前提条件エディタで、最後に保存または開いてから変更がなかったときにも、前提条件を保存するようにプロンプトが表示されていた問題は修正されました。

IOC-000043770

エンドユーザーが以前のバージョンの製品を新しいバージョンの製品に上書きインストールしようとしたときに表示されるメッセージに誤字がありましたが、修正されました。

IOC-000043797 (基本の MSI)

ラジオ ボタンのコントロールの“テキスト”設定と“テキストのスタイル”設定は今回より、ダイアログ エディタを使用して変更することができます。以前、これらの設定は変更することができませんでした。

IOC-000043870、IOC-000045034 (スタンドアロンビルド)

InstallShield ヘルプ ライブラリで、スタンドアロンビルドをインストールする手順の説明が更新されました。説明文に、複数言語と再配布可能ファイルのサポートに関する詳細が追加されました。

IOC-000043881

IIS アプリケーション プールを含むインストールが IIS 6.0 で無効なアプリケーション プールを生成していた問題は今回修正されました。生成された無効なアプリケーション プールは、Web サイトで表示することはできましたが、選択することはできませんでした。

IOC-000043936 (基本の MSI)

IIS 構成を含む DIM を参照するプロジェクトをビルドしたときにビルド エラー -9029 が発生していた問題は今回修正されました。

IOC-000043943 (基本の MSI、InstallScript MSI)

インストールで、Visual Studio 2005 を使用してビルドされ、.NET 2.0 を使用する Installer クラスが呼び出されたときに、実行時エラー 1001 が発生していた問題は修正されました。また、InstallUtilLib.dll の .NET 2.0 バージョンが使用されたとき、.NET 1.1 Installer のクラスがエラー 1001 の原因になっていた問題は修正されました。実行時エラー 1001 は、Visual Studio 2005 または Visual Studio .NET 2003 で作成されたマージ モジュール、または Installer クラスを持つアセンブリを含むマージ モジュールを含むプロジェクトでは、現在も発生する可能性があります。詳しい情報は、ナレッジベースの記事「[Q108690](#)」を参照してください。

IOC-000044064

使用許諾契約書ダイアログの [印刷] ボタンが Windows Installer 2.0 がある日本語のマシン上で適切に動作しなかった問題は今回解決されました。以前、[印刷] ボタンが正しく動作するには、Windows Installer 3.0 以降が必要でした。

IOC-000044079 (基本の MSI、InstallScript MSI)

セットアップ前提条件エディタで、前提条件に“Windows Installer エンジンおよび/または .NET Framework が先にインストールする必要がある”チェック ボックスを選択すると、Windows Installer エンジンと .NET Framework は今回より、セットアップ前提条件がインストールされる前にインストールされます。以前、前提条件は、エンジンまたはフレームワークの前にインストールされていました。

IOC-000044129 (基本の MSI、InstallScript MSI)

マージ モジュールをローカル マシンではなくネットワークに保存して、[オプション] ダイアログ ボックスの [マージ モジュール] タブでネットワーク パスを指定したときに、これらのマージ モジュールがインストール済みであると認識されなかった問題は今回解決されました。以前、InstallShield はネットワーク マージ モジュールを検出しませんでした。

IOC-000044170

今回より、[SQL スクリプト] ビューの [要件] タブにある [Microsoft SQL Server Desktop Engine/SQL Server Express へのインストールを許可する] チェック ボックスが 1 つの接続に対してクリアになっている状態で、エンドユーザーが SQLLogin ダイアログで SQL Server 2005 Express インスタンスを選択して、[次へ] ボタンをクリックすると、データベースをこのサーバーにインストールできませんというエラー メッセージがインストールで表示されます。以前、エンドユーザーはインストールをそのまま続行することができました。

IOC-000044259 (基本の MSI、InstallScript MSI)

累積 Quickpack は今回から、以前の QuickPatch でアップグレードされたファイルをアップグレードします。

IOC-000044310、IOC-000046696 (基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI)

[インターネット インフォメーション サービス] ビューの Web サイトの [Web サイト] タブにある "TCP ポート" 設定と "サイト番号" 設定で、プロパティ、テキスト置換、および他の種類の文字列を入力することができるようになりました。以前、これらの設定には、数値のみ入力可能でした。

IOC-000044422 (基本の MSI、InstallScript MSI)

Oracle がサポートされていて、Oracle 10g Instant Client 前提条件をクリーン マシンに初回でインストールするインストーラを実行したとき、今回からエンドユーザーはインストールを再開せずに Oracle サーバーへ接続することができます。以前は、エラーメッセージが表示されました。

IOC-000044506

今回より、CopyFile または XCopyFile がソースの場所に存在しないときにインストールで呼び出された場合、ファイルが不足していることを通知するメッセージ ボックスがエンドユーザーに表示されます。以前、インストールはエラー メッセージまたは警告を表示しないで終了することがありました。

IOC-000044563 (マージ モジュール)

InstallShield は今回より、マージ モジュール プロジェクトで、マージ モジュールの GUID を使用して前回のシステム検索の結果を適切に参照します。

IOC-000044731 (基本の MSI、InstallScript MSI)

IS_SQLSERVER_CXNS_ABSENT_FROM_INSTALL という名前の新しいプロパティが導入されました。このプロパティを使用すると、インストールまたはアンインストール中にスキップする SQL 接続を(カンマで区切って) 指定することができます。値に ALL を設定すると、すべての SQL 接続がスキップされます。

IOC-000044778

複数行の文字列値を持つ SQL スクリプトがあるとき、Oracle がインストールから実行された際、Oracle で SQL スクリプト エラーが発生していた問題は解決されました。

IOC-000044996

オートメーション インターフェイスで定義済みフォルダをコンポーネントのインストール先に設定すると、正しくないインストール先が設定されていた問題は今回修正されました。以前、コンポーネントのインストール先は無視され、TARGETDIR が常にインストール先になっていました。ISWiComponent.Destination プロパティがオートメーション インターフェイスで設定されると、ISWiComponent.SourceLocation プロパティがリセットされますので注意してください。

IOC-000045004

RegSpyUI.exe COM 抽出ツールで “Multiple” という語に誤植がありました (英語版にのみ適用)。

IOC-000045057 (基本の MSI、InstallScript MSI)

あるコンポーネントの “.NET プリコンパイル” 設定が [はい] に設定された状態で、関連付けられたシステム検索の 1 つがプロジェクトから削除された後、コンポーネントの “ビルド時に.NETをスキャン” 設定が変更されたときエラー メッセージが表示されていましたが、この問題は解決されました。

IOC-000045139

IIS 6 のサポートでは今回から、既存の Web サービス拡張を上書きすることができます。これを行うには、[インターネット インフォメーション サービス] ビューの [Web サービス拡張] タブにある新しい [既存の拡張を上書きする] チェック ボックスを選択します。以前、インストールでは、Web サービス拡張の新規作成だけが可能でした。この機能を使用してセットアップ作成者は、ターゲット マシンに既に存在する拡張を許可したり禁止したりすることができます。

IOC-000045142

Windows Mobile インストールは今回から、修復およびアップグレード中に最新のモバイルインストールを起動します。以前、ActiveSync [プログラムの追加と削除] アプレットは起動されましたが、最新のインストールは自動的に起動されませんでした。今回よりユーザーは、モバイル アプリケーションを修復/アップグレードするオプションが自動的に与えら

れます。

IOC-000045147 (スタンドアロン ビルド)

XMLRT.dll ファイルは今回より、スタンドアロン ビルドでインストールされます。スタンドアロン ビルドは、XML ファイルの変更を含むインストールをビルドするとき、このファイルが必要です。以前、このファイルは InstallShield があるマシンからスタンドアロン ビルドがビルド マシンに手動でコピーしなければなりません。ファイルをコピーせずに、スタンドアロン ビルドを使用して XML ファイルの変更を含むインストールをビルドすると、ビルド警告 -5000 が発生していました。

IOC-000045150

Windows Mobile ウィザードで [既存のモバイル デバイス キャビネット] オプションを選択すると、ウィザードで追加されたすべての .cab ファイルが自動的にターゲット マシンにインストールされます。以前、.cab ファイルは 1 つだけ自動的にインストールされていました。

IOC-000045233 (InstallScript)

ISProBE.tlb は今回より、InstallScript インストールではインストールされません。アーキテクチャの変更により、このファイルは必要なくなりました。以前、エンドユーザーがメンテナンス モードをキャンセルすると、このファイルが壊れることがありました。

IOC-000045236 (基本の MSI、InstallScript MSI)

アドバタイズ ショートカットにカスタム アクションを指定する手続きが正しく動作するようになりました。今回より検証時に、ビルド警告 -7105 は発生しません。また、ICE03 エラーと ICE50 エラーも生成されなくなりました。また今回より、目的のカスタム アイコンが、ターゲット マシンにインストールされた際、ショートカットと共に表示されます。以前、Windows アイコンがカスタム アイコンの代わりに使用されることがありました。また、InstallShield のいくつかの初期のバージョンでは、ビルド時に警告 -7105が、また検証時に エラー ICE03 および/または ICE50 がユーザーに返されていました。

IOC-000045278 (基本の MSI、InstallScript MSI)

MsiFileHash テーブルのエントリは今回より、ダイナミック ファイル リンクに正しく生成されます。

IOC-000045281 (基本の MSI、InstallScript MSI)

IIS の caCreateVRoots カスタム アクションと caRemoveVRoots カスタム アクションは今回より、次の適切な条件で構成されます: caCreateVRoots に REMOVE<>"ALL" 条件があり、caRemoveVRoots に Installed 条件があること。両方のアクションは、機能の選択が変更されたことを考慮して、メンテナンス中に実行する必要があります。以前、これらの条件はカスタム アクションには構成されませんでした。このため、進捗状況バーでこれ

らのカスタム アクションが表示されていました。

IOC-000045301 (基本の MSI、InstallScript MSI)

Windows Installer 3.1 v1 は今回より、v2 を必要とするターゲット システムにインストールされません。プラットフォーム バリエーションまたは再配布可能ファイルの取得に関する詳細については、Microsoft ナレッジ ベース記事 [「898715」](#) を参照してください。

IOC-000045326

SQLLogin のサーバー一覧では今回より、大文字と小文字を区別しません。以前、この一覧では大文字と小文字が区別されていました。このため、サーバー名に大文字が使われている場合と小文字が使われている場合とに分かれて一回以上表示されることがありました。

IOC-000045410 (基本の MSI、InstallScript MSI)

プロパティが IIS 値内に含まれていて、プロパティ自体に値がないとき、最終的にインストールされた値にはこのプロパティは含まれません。たとえば、ある仮想ディレクトリが Before[MYPROPERTY]After という名前を持ち、MYPROPERTY に何も値がない場合、仮想ディレクトリは BeforeAfter という値でインストールされます。以前、MYPROPERTY が存在しない、または Null 値を持っていた場合、インストールは失敗していました。

IOC-000045420 (InstallScript、InstallScript MSI)

[セットアップの種類] ビューでは今回より、セットアップの種類は実行時ダイアログで使用された順番に表示されます。以前、実行時における順番は [セットアップの種類] ビューで表示される順番に反映されていませんでした。

IOC-000045476

ダイナミック InstallScript エンジン オプションは今回より、サポートされていません。今回のリリースでは、より新しいバージョンのエンジンが別のインストールによってターゲットマシンにインストールされた場合も、インストールは常にビルド時に使用されたエンジンを使用します。

IOC-000045607 (スタンドアロン ビルド)

スタンドアロン ビルドで、.NET Framework 2.0 再配布可能ファイルが正しい Program Files フォルダにインストールされるようになりました。以前、これらのファイルはスタンドアロン ビルドの 0409 Program Files フォルダにインストールされていたため、.NET Framework 2.0 を含むプロジェクトで、-6247 ビルド エラーが発生していました。

IOC-000045628 (スタンドアロン ビルド)

今回より、スタンドアロン ビルドを利用して、Windows Installer 3.1 のみを含むリリースをビルドすることができます。以前、これを行うと、エラー -7065 が発生していました。

IOC-000045668

オートメーション インターフェイスで、機能に関連付けられたコンポーネントが、オートメーション インターフェイスですぐ使用できるようになりました。以前は、オートメーション インターフェイスでコンポーネントを作成するには、プロジェクトを保存した後、一度閉じてから再度開く必要がありました。

IOC-000045700 (スタンドアロン ビルド)

今回より、スタンドアロン ビルド (IsSaBld.exe) の `-o` コマンドライン パラメータは適切に動作します。このパラメータを使用して、プロジェクトで参照されるマージ モジュール (.msm) ファイルを含むフォルダをカンマで区切って指定することができるようになりました(複数指定可)。以前ある状況下では、このパラメータを使用すると、マージ モジュールがシステムにインストールされていないというメッセージと共にビルド エラー -7017 が不適切に表示されていました。

IOC-000045751 (スタンドアロン ビルド)

スタンドアロン ビルドをインストールすると、インストールは今回より、空のオブジェクト フォルダとマージ モジュール フォルダを Standalone Build Program Files フォルダに作成します。InstallShield プロジェクトにマージ モジュールまたはオブジェクトが必要な場合、それらを InstallShield があるマシンからビルド マシンのこれらの新規フォルダにコピーすることができます。以前、スタンドアロン ビルドがインストールされた場合、手動でこれらのフォルダを作成し、マージ モジュールとオブジェクトをビルド マシンに追加する必要がありました。

IOC-000045785、IOC-000045786 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[カスタム アクション] ビューと InstallShield ヘルプ ライブラリでは今回より、ネスト インストールは Windows Installer で使用されていない機能であることが述べられています。マイクロソフト社では一般向けにリリースされる製品のインストールについて、ネスト インストールおよびネスト インストール カスタム アクションの使用を避けることを推奨しています。

IOC-000045787 (基本の MSI、InstallScript MSI)

今回より、Windows Mobile ウィザードの [デバイス ファイル] パネルに、“インストールされたプログラムは Windows Mobile ソフトウェアの以前のバージョン用に設計されているため、適切に表示されない可能性があります” という警告を抑制できる新しいチェック ボックスが追加されました。以前、.cab ファイルが新しいプラットフォームのみをターゲットしているように見えるとき、警告が抑制されて、BuildMax=0xE0000000 が .inf ファイルの [CEDevice] セクションに追加されました。しかしながら、セットアップ作成者が常に警告を抑制したい場合も考えられるため、BuildMax=0xE0000000 を常に .inf ファイルに追加することができるチェック ボックスが追加されました。

IOC-000045827

InstallShield が Visual Studio 2005 内から実行されると、今回より文字列が文字列テーブルに表示されます。また、プロパティグリッドでフィールドの 1 つに値を入力するとき、[文字列テーブル エディタ] タブが、右下のペインに表示されないという問題も修正されました。

IOC-000045828 (基本の MSI、InstallScript MSI)

InstallShield のカスタム アクション ウィザードが Visual Studio 内から実行されたときに、Visual Studio 2005 がハングしていた問題は今回修正されました。

IOC-000045829

InstallShield が Visual Studio 2005 内から実行されたとき、[GUID の生成] ボタンが適切に動作しなかった問題は今回解決されました。以前、InstallShield のカスタム アクション ウィザードが Visual Studio 内から実行されたとき、このボタンをクリックしてもコードを変更できませんでした。

IOC-000045842

InstallShield では、ショートカット フォルダを削除したとき、今回よりプロジェクトが変更されたことが検知され、[保存] ボタンが正しく有効になります。したがって、プロジェクトが保存されたとき、変更が適切に保存されるようになりました。以前、InstallShield は、この変更を検出できませんでした。したがって、削除されたフォルダは、ダイレクト エディタの Directory テーブルを使って手動で削除するまで、プロジェクトから削除されませんでした。

IOC-000045998 (基本の MSI)

DIM を含む InstallShield プロジェクトがビルドされたとき、InstallShield の日本語版でビルド エラー -7115 が発生していた問題は修正されました。

IOC-000046043 (基本の MSI、InstallScript MSI)

製品バージョンの設定は今回より、[アップグレード] ビューのメジャー アップグレード項目の [共通] タブで保持されます。以前、[バージョン範囲を含める] チェック ボックスを選択してバージョンの範囲を指定した場合、この設定が保存されませんでした。

IOC-000046326 (基本の MSI、InstallScript MSI)

アドバタイズ ショートカットの [アイコン インデックス] 設定で指定されたアイコンは今回より、正しくインストールされます。

IOC-000046705 (InstallScript)

[ファイルとフォルダ] ビューで、実行可能ファイル (.exe) をスクリプト定義のフォルダに追加した際に InstallShield がクラッシュしていた問題は解決されました。

IOC-000046708 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[レジストリ] ビューで一部のキーのアクセス許可が設定されている間、InstallShield がクラッシュしていた問題は今回解決されました。

IOC-000046886 (基本の MSI、InstallScript MSI)

トランスフォーム プロジェクトのファイルに対して [システム バージョンをオーバーライドする] チェック ボックスをクリアしたとき、InstallShield がクラッシュしていた問題は今回解決されました。

IOC-000046944 (基本の MSI、InstallScript MSI)

.NET Framework 1.0 を Windows XP Tablet PC Edition にインストールしたときに、SP3 適用の試みがあった問題は修正されました (この適用の試みは、SP3 がシステム コンポーネントで、Windows XP Tablet PC Edition SP2 の一部として適用されなければならないため失敗に終わっていました)。

IOC-000047075 (InstallScript MSI)

IFX_INSTALLED_VERSION 変数は今回より、InstallScript MSI インストールで正しく設定されます。以前、この変数の値は、InstallScript MSI インストールで正しく設定されませんでした。

IOC-000047122

ある特定の条件でビルドされた InstallScript MSI パッチで、セットアップが Setup.exe から起動されなくてはならないという実行時エラーが発生していましたが、この問題は修正されました。

IOC-000047212

今回より、C# .NET Wizard を使用して作成された新規の InstallShield プロジェクトは、指定の Visual Studio 2005 ソリューションに追加されます。

IOC-000047507

今回より、"" が .ini ファイル名を除くすべてのパラメータに指定されたとき、InstallScript API WriteProfString は、Windows 9x 上で特定の .ini ファイルの .ini ファイル バッファをフラッシュします。

注: 以下の WinAPI.h にある Windows API プロトタイプが変更されました。

```
prototype KERNEL32.WritePrivateProfileStringA(BYVAL STRING, POINTER, POINTER, BYVAL STRING);  
prototype KERNEL32.WriteProfileStringA(BYVAL STRING, POINTER, POINTER);
```

以下は、新しいプロトタイプです。

```
prototype KERNEL32.WritePrivateProfileStringA(POINTER, POINTER, POINTER, BYVAL  
STRING);  
prototype KERNEL32.WriteProfileStringA(POINTER, POINTER, POINTER);
```

この変更により、スクリプトで WritePrivateProfileStringA または WriteProfileStringA を呼び出すと、スクリプト コードは、最初のパラメータを POINTER として指定してはならないため、コンパイルされません。次のようなメッセージが発生することがあります。

```
C:\My InstallShield 12 Projects\My Project Name\Script Files\Setup.Rul(20) : エラー  
C8038: 'szAppName' : 数値が必要です
```

この問題を解決するには、変数を渡さずに、ポインタを変数に渡します。次のコードを使用します。

```
WritePrivateProfileStringA( &szAppName, &szKey, &szValue, szFileName );
```

次のコードは使用しません。

```
WritePrivateProfileStringA( szAppName, &szKey, &szValue, szFileName );
```

IOC-000047513

GetDiskInfo を DISK_INFO_QUERY_DRIVE_TYPE パラメータと共に使用したとき、Windows 9x プラットフォームで正しい情報が返されなかった問題は今回修正されました。以前、この関数は、あるケースで、実際のドライブ タイプを取得せずに、di.nDriveType を DRIVE_NO_ROOT_DIR を設定していました。

IOC-000047678 (基本の MSI、InstallScript MSI)

コンポーネントがマージ モジュール プロジェクトにエクスポートされた時、Class テーブルの ProgId_Default 列の値に マージ モジュール GUID が挿入されていましたが、この問題は解決されました。

IOC-000047727 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[ファイルとフォルダ] ビューにある特定のインストール先フォルダからコンポーネント ウィザードを起動したとき、コンポーネント ウィザードでデフォルトで選択されるインストール先は、ウィザードが起動されたインストール先になります。以前、デフォルトで選択されたインストール先は、常に [INSTALLDIR] でした。

IOC-000050243

ビルド時に COM データを抽出すると今回より、以下の両方のシナリオにおいて、ProgID が ProgId テーブルに追加されます。(1) CLSID と ProgID がお互いを参照するとき。(2)

CLSID は ProgID と参照しないが、ProgID が CLSID を参照するとき。以前、シナリオ 2 は失敗していました。

[トップに戻る](#)

バグ修正 (2007 年 1 月 29 日)

SP2 の取得は、ナレッジベースの記事「[Q112919](#)」を参照してください。

新しい Microsoft .NET Framework 3.0 前提条件条件

InstallShield には今回、基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトに追加することができる .NET Framework 3.0 前提条件が含まれています。

アドバタイズを使用して、前提条件インストールで発生する UAC プロンプトの回数を最小限にする機能

基本の MSI または InstallScript MSI プロジェクトの [リリース] ビューにある新しい “前提条件が昇格必要時のアドバタイズ” 設定を利用すると、Windows Vista マシン上で、セットアップ前提条件が「昇格された権限」で正常にインストールされたあと、.msi ファイルをアドバタイズしてから実行するかどうかを指定することができます。アドバタイズすることにより、エンドユーザーにユーザー アカウント制御 (UAC) のプロンプトを避けることを許可できる場合があります。アドバタイズを行わなかった場合、このプロンプトが表示され、昇格された権限を必要とする .msi パッケージを要求します。

“前提条件が昇格必要時のアドバタイズ” 設定は、インストールで、昇格された権限を要求するための UAC の同意プロンプトまたは資格情報プロンプトを起動するかどうかを判断するときに関わってくる InstallShield の設定の 1 つです。Windows Vista システムでエンドユーザーがインストールを実行する際の UAC の動作を適切に定義するためには、これらの異なる設定をよく理解することが必要です。さらに詳しい情報は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「インストール中におけるユーザー アカウント制御のプロンプトの数を最小化する」セクションを参照してください。

また、この修正の一部として、ある前提条件について、セットアップ前提条件エディタの [動作] タブにある [前提条件は管理者権限を必要とする] チェック ボックスが選択されている状態で、その前提条件が Windows Vista システムにインストールされたとき、Windows Vista で、エンドユーザーが同意または認証を提供する必要がある UAC プロンプトが表示されます。以前、このチェック ボックスを選択 (または、クリア) しても、Windows Vista システムには何も影響がありませんでした。

強化された Windows Vista 品質向上プログラムの検証

InstallShield に新しく導入された InstallShield 内部整合性評価プログラム (ICE) を利用して、作成したインストールが Windows Vista 品質向上プログラムで定義されているベストプラクティスに十分に準拠していることを確認することができます。新しい評価ツール (ISICE11 ~ ISICE20) は、すべての .exe ファイルに埋め込みマニフェストがあること、保護されているレジストリ キーが変更されていないこと、.dll および .exe ファイルで古い形

式の API が使われていないことなどを確認します。また、ISICE02 は、今回より、.ocx、.sys、.cpl、.drv、および .scr ファイルが署名されていることを検証します。これまで、ISICE02 は、exe ファイルの署名だけ検証していました。ISICE06 は今回より、保護された Windows ファイルと同じ名前を持つインストール内のファイルのパスを確認します。インストール内のファイルのインストール先パスが、保護された Windows ファイルの場所と一致しないとき、ISICE06 は今回より、検証エラーの代わりに検証警告を表示します。

パッケージの検証を実行すると、検証メッセージが出力ウィンドウの [タスク] タブに一覧表示されます。[タスク] タブの検証メッセージをダブルクリックすると、今回より、そのメッセージに対応するダイレクト エディタの領域にすぐ移動できます。この機能は、標準 ICE 同様、ISICE でも利用できます。以前は、標準 ICE にのみ提供されていました。

Windows Vista で InstallScript カスタム アクションが原因による初期化の遅れやインストールの中断が発生しなくなりました

Windows Vista 上で、エンドユーザーが InstallScript カスタム アクションを含むインストールを実行したとき、各 InstallScript カスタム アクションの初期化プロセスで 30 秒間の遅れが発生していましたが、この問題は修正されました。また、InstallScript コードによりインストールが中断されることもなくなりました。

以前、30 秒間の遅れ、およびインストールの中断は、次のような状況で発生していました：(1) インストールが、デュアルコアまたは 64 ビット プロセッサの Windows Vista システム上で実行され、かつ (2) エンドユーザーのシステムで、NX ページ保護ビットをもつデータ実行防止機能 (DEP : Data Execution Prevention) のハードウェア サポートがあるプロセッサが使われている場合。

InstallScript エンジン ファイル

InstallScript エンジン ファイルは今回より、Application Data フォルダのサブフォルダにインストールされなくなりました。以前、64 ビット ターゲット システム上で IsBe.dll ファイルは、インストールの実行中、このフォルダに一時的にキャッシュされていました。

Trialware

InstallShield 12 SP2 の Trialware プロテクションでラップされた .exe ファイルは、Windows Vista システム上で実行することができます。SP2 がない InstallShield 12 またはそれ以前の InstallShield 上で、.exe ファイルが Trialware プロテクションでラップされると、エンドユーザーは Windows Vista システム上で実行できません。

また、InstallShield ライセンシング サービス (すべての Trialware 製品に必要) が今回より、インストール時に起動します。これにより、管理者権限がないエンドユーザーも、Trialware を実行できるようになります。これは、Windows Vista システム上で特に利点があります。以前、Trialware を Windows Vista システム上で実行するには、エンドユーザーは管理者権限をもたなければなりませんでした。

IOA-000026128

InstallShield の評価版で作成されたインストールで、Windows Installer 3.1 と .NET Framework 2.0 をインストールしようと試みたときに 04121 実行時エラーが発生していた問題は今回修正されました。

IOA-000026510 (InstallScript MSI)

メジャー アップグレードが製品の以前のバージョンに適用されたとき、特定の条件下で実行時エラー 1670 が発生していましたが、この問題は今回修正されました。これまで、InstallScript MSI プロジェクトでは、以前のインストールが InstallShield 11.5 以前で作成されていて、最新のインストールが InstallShield 12 で圧縮 Setup.exe ファイルとしてビルドされたとき、このエラーが発生していました。

IOA-000026906 (QuickPatch)

COM 関連のテーブルが不足しているベースのパッケージからビルドされた QuickPatch プロジェクトでビルド エラー -4344、-4346、および -4347 が発生していた問題は、今回修正されました。

IOA-000027149 (InstallScript MSI)

ビルボードが今回より、最初のファイルがターゲット システムに転送される直前に有効になります。以前、ビルボードは、即時モードで、もっと早い時点で有効になっていました。このため、ビルボードが、ファイル転送が実行される前に表示されていました。

IOA-000027807 (InstallScript MSI)

アンインストールまたはメンテナンス時に使用できるように InstallScript MSI インストール中にキャッシュされた Setup.exe ファイルのバージョンに、元のセットアップ ランチャと同じ署名とバージョン情報が含まれるようになりました。以前、キャッシュされた Setup.exe には、デフォルトのバージョン情報が含まれていました。

IOC-000044312

XML ファイルが [XML ファイルの変更] ビューに含まれている場合、使用されるデフォルト エンコードは今回より UTF-8 です。使用する XML ファイルが別のタイプのエンコードを必要とする場合、Windows Installer property IS_XML_FILE_ENCODING でエンコードの値を指定することができます。

IOC-000045664 (基本の MSI、InstallScript MSI)

基本の MSI または InstallScript MSI プロジェクトに .NET 2.0 アセンブリを含めたときに、“ビルド時に .NET をスキャン” 設定を [プロパティのみ] または [依存関係とプロパティ] に設定すると、ProcessorArchitecture アセンブリ プロパティが MsiAssemblyName テーブルにスキャンされます。以前、このプロパティはテーブルにスキャンされませんでした。このため、アセンブリがグローバル アセンブリ キャッシュ (GAC) にインストールされたとき、問題が発生していました。アセンブリも、インストールはされていましたが、アンイ

インストール中 GAC から削除されませんでした。これは、MsiAssemblyName テーブルのプロパティが GAC のアセンブリのプロパティに一致しなかったためです。

IOC-000047171 (基本の MSI、InstallScript MSI)

Windows Vista に InstallShield がインストールされている場合、今回より、COM 抽出用に構成されたコンポーネントをもつプロジェクトをビルドできます。以前、Windows Vista システム上では COM 抽出にエラーが発生したため、COM 情報は抽出されませんでした。

IOC-000050260

InstallScript エンジンには、ユーザーが管理者グループかどうかを確認して、ユーザーが管理者かどうかを判別します。InstallScript エンジンには今回より、このグループに SE_GROUP_USE_FOR_DENY_ONLY セキュリティ識別子 (SID) 属性が含まれているかどうかも確認します。この属性は、インストールのグループ メンバーシップを実質的にヌルにします。以前、ユーザーが管理者グループでも、グループにこのフラグが設定されているとき、エンジンはユーザーが管理者権限があると不適切に仮定していました。これは、Windows Vista 上の UAC シナリオの場合です。

また、管理者グループのユーザーが標準アクセストークンを使用してインストールを実行するときに、InstallScript MSI エンジンが Windows Vista 上で UAC と共に適切に動作するように更新されました。以前、[リリース] ビューの “必要実行レベル” 設定が [起動者] に設定されている状態で、ユーザーが標準アクセストークンを使って管理者としてインストールを実行すると、Is(USER_ADMINISTRATOR, "") が TRUE (インストールが管理者権限なしに実行されています) を返していました。

IOC-000050689

InstallShield では今回より、機能の名前を変更してから、それをある機能から別の機能へドラッグアンドドロップすることができます。以前、InstallShield は、このシナリオでクラッシュしていました。

IOC-000050712 (InstallScript)

Update Service 5.0 には、ターゲット システムで Internet Explorer 5.0 以降が必要です。InstallScript インストールに Update Service 5.0 が含まれている場合、Update Service ファイルは、ターゲット システムに Internet Explorer 5.0 以降があるときのみインストールされます。以前、ターゲット システムに Internet Explorer 4.x があるとき、インストールで、Agent.exe が正常に自己登録されませんでしたという実行時エラー メッセージが表示されていました。

IOC-000050721 (InstallScript)

InstallScript インストールは今回より、Update Service のサポート ファイルのインストール中に、Update Manager ファイルを登録します。

IOC-000051107

DCOM 95 または MDAC マージ モジュールがインストールに含まれているとき、実行時エラー 2228 (“1:存在しないトークンを参照しようとしていました。”)が発生していた問題は、今回修正されました。

IOC-000051113 (基本の MSI、InstallScript MSI)

“ビルド時に .NET をスキャン” オプションが最低 1 つのコンポーネントに使用されたとき、ビルド エラーが発生した問題は、今回修正されました。以前、あるケースでビルド エラーが発生したり、InstallShield がクラッシュしたりしていました。インストールがスタンドアロン ビルドまたはコマンドラインからビルド中に、あるケースでビルド プロセスが突然終了していましたが、この問題は修正されました。

IOC-000051195 (InstallScript MSI)

今回より、インストールに日本語、韓国語、または中国語 (簡体) を含めて、デフォルト ダイアログを編集できるようになりました。以前、これらの言語の 1 つをインストールに含めて、デフォルト ダイアログを編集すると、ビルド エラー -6118 が発生していました。

IOC-000051365

エンドユーザーがインストール中に言語TRANSFORMを指定すると、インストールでは今回より、その言語TRANSFORMが使われます。以前、このケースでは、Setup.exe TRANSFORMが使用されました。

IOC-000051685

インストールのビルド時に、アイコンが .dll または .exe ファイルから抽出されたとき、ショートカット アイコンが今回より、Windows Vista システムで表示されます。また、シールドオーバーレイはアイコンで表示されなくなりました。

IOC-000052411 (InstallScript MSI)

エンドユーザーが InstallScript MSI インストールを CD-ROM から実行して、製品をあとでアンインストールしたとき、実行時エラー 1155 (“ファイル C:\Program Files\InstallShield Installation Information\%{GUID} が見つかりません”)が発生していた問題は修正されました。

IOC-000052420 (基本の MSI、InstallScript MSI)

[インストールの準備中] ダイアログが表示されたあと、ある条件下でインストールがハングしていた問題は今回修正されました。以前、この動作は、ISSetAllUsers カスタム アクションが繰り返し Upgrade テーブルを検索し、Upgrade テーブルがビルド時に .msi ファイルから削除されたとき発生していました。

IOC-000052639 (InstallScript)

インストールが日本語 OS があるマシン上で実行されたとき、日本語文字列がインストール ダイアログで 疑問符 (?) として表示されていた問題は今回修正されました。以前、これは、日本語コード ページがインストールされている英語の OS を実行しているシステム上で、ダイアログを InstallShield で変更したときに発生していました。

IOC-000052746 (InstallScript)

日本語コード ページがインストールされている英語の OS を実行しているマシン上で、日本語文字列が InstallShield の [文字列テーブル] エディタで編集されたときに、インストールのダイアログで正しく表示されなかった問題は今回修正されました。以前、ダイアログの日本語文字列で文字化けが発生していました。

IOC-000052826 (InstallScript MSI)

エンドユーザーが、複数の CD に分割された InstallScript MSI インストールを実行してから、あとで製品を [プログラムの追加と削除] から変更または削除しようと試みたときエラーが発生していましたが、この問題は修正されました。以前、このシナリオで、次のエラーメッセージが表示されていました: "セットアップ初期化ファイルの読み取りエラー"。このエラーは、.ini ファイルと ISSetup.dll がターゲット システムのキャッシュ場所になかったために発生していました。

IOC-000052827

オートメーション インターフェイスから、ProjectSchemaVersion プロパティで適切な値を使用して、InstallShield 12 プロジェクトを InstallShield X、InstallShield 10.5、InstallShield 11、または InstallShield 11.5 プロジェクト (.ism) として保存できるようになりました。

- epv100 — プロジェクトを InstallShield X プロジェクトとして保存します。
- epv1050 — プロジェクトを InstallShield 10.5 プロジェクトとして保存します。
- epv110 — プロジェクトを InstallShield 11 プロジェクトとして保存します。
- epv1150 — プロジェクトを InstallShield 11.5 プロジェクトとして保存します。

IOC-000053087 (InstallScript MSI)

ISSetup.dll (InstallScript エンジンを含むファイル) は今回より、メディアの種類が Web であるリリースで、常に Setup.exe ファイルにストリームされます。以前、この種類のインストールは、ISSetup.dll がターゲット マシン上にダウンロードされなかったか、または提供されなかったため、失敗していました。

IOC-000053338

InstallShield の [ヘルプ] メニューで [検索] コマンドを選択したとき、Windows Vista システムでクラッシュが発生していた問題は、今回修正されました。

IOC-000053364 (基本の MSI、InstallScript MSI)

インストールに、オプションとフラグされているセットアップ前提条件が含まれているとき、インストールがクラッシュしていた問題は今回修正されました。以前、インストールは、セットアップ前提条件のインストールを求めるプロンプトを表示しなければならないところでクラッシュしていました。

IOC-000053473 (基本の MSI、InstallScript MSI、InstallScript MSI)

MySQL または Oracle データベースにインストールされるように構成されている SQL スクリプト ファイルのスキーマ バージョンを指定したときに、実行時エラー 27515 が発生していた問題は今回修正されました。

IOC-000053588 (基本の MSI、InstallScript MSI、InstallScript MSI)

CD から、または /runfromtemp コマンドライン パラメータを使って実行されたインストールで、Windows Vista システム上に一時ファイルがそのまま残されていた問題は今回修正されました。以前、これらの条件下で基本の MSI インストールまたは InstallScript MSI インストールが実行されたとき、Setup.exe のコピーが一時フォルダの GUID サブフォルダに残されていました。InstallScript のインストールでは、1 つのファイルが一時ファイルと共に一時フォルダに残されていました。

IOC-000053963 (InstallScript)

ReleasePackager.exe をコマンドラインから実行して、InstallScript インストールを単一実行可能ファイルとしてビルドしたとき、実行時エラー -5001 が発生していた問題は今回修正されました。以前、ターゲット システムでの初期化中に、このエラーが発生していました。

IOC-000054369 (スタンドアロン ビルド)

インストールに、アイコン抽出を使用するショートカットが 1 つまたは複数含まれていて、Windows Vista システム上でスタンドアロン ビルドを使用してインストールをビルドしたとき、ビルド エラー -3204 が発生していましたが、この問題は修正されました。

IOC-000056056

InstallShield がアンインストールされたとき、Outlook で使用されている Microsoft Office レジストリ キー (HKEY_CLASSES_ROOT¥Interface¥{00020404-0000-0000-C000-000000000046}) もアンインストールされていた問題は今回修正されました。

[トップに戻る](#)

既知の問題

既知の問題の全リストは、ナレッジベースの記事「[Q112039](#)」を参照してください。

[トップに戻る](#)